

Y15b 岡山 188cm 望遠鏡ニュートン焦点撮像乾板目録の正規化と補完

柳澤顕史 (国立天文台), 古荘玲子 (都留文科大学), 根本しおみ, 春日敏則, 渡部潤一 (国立天文台)

国立天文台・写真乾板ワーキンググループでは、国立天文台が保有する写真乾板のデジタル・アーカイブ化に取り組んでいる。これまでに、旧・岡山天体物理観測所の 188cm 望遠鏡ニュートン焦点で撮影された写真乾板約 4 千枚のスキャン画像に観測メタ情報を付与し、天文情報センターよりオンラインで公開した。この度、利用者の利便性向上を目指し、観測メタ情報の正規化と補完を行ったので報告する。

公開済みカタログの観測メタ情報は、観測野帳に記載された内容を忠実に転記したが、いくつかの課題があった。その一つは、同義であるが異なる表現が見られたことである。観測野帳には、観測所が指定した項目を観測者が記入するよう指示されていたが、記載は観測者の裁量に委ねられていたことが原因である。そこで、ルールを設定し表記を統一した。たとえば天体名は、太陽系天体については IAU の指定番号、それ以外は SIMBAD の Main ID に置き換えた。また指向座標は、観測時の赤道座標を J2000 に変換し、乾板スキャン画像の位置較正に成功した場合は視野中心の座標に置き換えた。

もう一つの課題は、観測所の指定項目にはないが、観測を特徴づける上で必要な情報の不足であった。その代表的なものが観測手法である。観測手法とは、具体的には、直接撮像単一露出、直接撮像多重露出、イメージスプリッターの使用、メトカーフ・ガイド、ハルトマン・テスト、フォーカス・テストなどである。これらの情報は野帳の天体名やメモ欄の記述や、さらにはスキャン画像の目視確認を経て記載した。

更新した目録は 国立天文台欧文報告 にて出版予定である。本講演では、観測メタ情報の正規化と補完を通じて明らかになった、岡山 188cm 望遠鏡・ニュートン焦点における観測の特徴について紹介する。